

学 校 評 価

(1) 令和4年度学校評価

<p>本年度の 重点目標</p>	<p>育てたい生徒像として、「挑戦する人(risk-takers)」を掲げる。</p> <p>(1) 教職員の多忙化解消に向けた取組を行い、教職員が余裕をもって生徒に対することができる環境づくりをする。</p> <p>(2) SSH事業HaRT-Projectにおける三つのプラン（出る杭発見・伸長、起業家魂育み、海外進出促進）による才能の伸ばし方を全校的に考えていく。3期に向け、新たな取組の計画を立てる。</p> <p>(3) 65分授業による「主体的、対話的で深い学び」を追究する。新課程における新たな評価を用いて、授業改善へと役立てる。</p> <p>(4) 高い目標を掲げて切磋琢磨する、挑戦の志を育む。</p> <p>(5) 行事や普段の生活における、自主自律の健全な精神を培う。</p> <p>(6) さまざまな機会を通じて、中学校や地域に生徒の活躍や本校の歴史を広報し、より志の高い入学生の確保に努める。</p> <p>(7) 感染症対策を十分に行い、教育活動を継続できる環境を整える。</p>		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
<p>服 務 (教頭)</p>	<p>①在校時間等の状況記録の集計結果等を安全衛生委員会等で確認し、1か月間の時間外労働時間が45時間を超えないよう教職員の健康障害防止に努める。</p> <p>②教職員の年次休暇の計画的な使用を促進するための環境整備に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな事業が始まるが、会議、委員会を増やすことなく効率的に行う。 ・部活動ガイドラインの遵守に努め、教員自身の休養日を確保するように促す。 ・定時退校日を月に1日と長期休業中とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・できる限り会議、委員会の一部を週時程内で実施する。(分掌会・教科会・担任会) ・土日の部活動の活動状況の把握に努める。 ・休養室の設置を推進し、設置できた時には積極的な活用を促す。 ・職員が年休を5日以上取得するように努める。
<p>学 習 指 導 (教務部)</p>	<p>①33単位65分授業における「主体的・対話的で深い学び」の追究</p> <p>②新校務支援システムの運用方法の研究と周知</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領における観点別評価を確立し、それを利用して指導と評価の一体化を目指す。 ・公開授業週間のさらなる充実を目指す。 ・授業の工夫や評価方法などの情報共有を行う。 ・将来的に業務の負担軽減につながる運用を検討し、全体で周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の状況に合わせた指導を行えるよう、観点別の評価をしながら、継続的な状況把握に取り組む。 ・授業アンケートと分析結果の利用方法の改善を検討する。 ・情報共有をしっかりと行う。 ・システムの利点を生かせるよう、連携できる点はできる限り活用する。
<p>防 災 ・ 式 典 (総務部)</p>	<p>①防災・防犯体制の整備</p> <p>②諸式典の検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災講話、防災避難訓練、帰宅班編制を実施する。自主的な避難訓練を実施する。 ・諸式典を、威厳を保ちつつ簡略化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時に「命を守る行動」がとれるような指導を心がける。 ・避難経路図を各教室に掲示し、自主的な行動を考えさせる。 ・防災時の行動マニュアルを職員・生徒ともに周知させる。 ・アンケート結果を参考に、時間、内容を検討する。全体が集まらない場合のために、Zoomでの実施方法を引き続き検討していく。
<p>生 徒 指 導 (生徒指導部)</p>	<p>①基本的な生活習慣の確立と自己管理能力の育成</p> <p>②部活動の活性化と学業との両立</p> <p>③交通事故防止</p> <p>④ひいらぎ特別支援学校との交流活動の推進</p> <p>⑤いじめの未然防止に係る取組の充実</p> <p>⑥いじめの早期発見、適切な事案対処</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・規則正しい生活習慣を確立させる。 ・携帯電話等の使用ルールを厳守させ、利用モラルを向上させる。 ・練習時間の確保と効率的な練習を追究させ、学業との両立を図る。 ・自転車通学者の交通事故防止に努める。 ・交流活動のさらなる充実を図る。 ・全校集会や学年集会、ホームルーム活動において、友情や基本的人権に対する理解を深め、生徒がいじめ問題を主体的に考える機会を設ける。 ・「いじめ・不登校対策委員会」の役割を具体化し、教職員間で共有する 	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的なタイミングで出欠統計を還元し活用してもらおう。欠席・遅刻過多生徒への個別指導を実施する。 ・校内での携帯電話等のルール厳守を徹底する。利用モラルの指導を工夫する。 ・挨拶を励行するとともに、活気のある効率的な活動を目指し、遅しい生徒を育てる。 ・登校指導、下校指導、講話、掲示物等を通じて、交通事故防止の啓発に努める。 ・両校の実態に即して、交流活動をより充実したものにする。 ・生徒がいじめ問題について主体的に考え、自らに関わる問題として捉えられるようにする。 ・「いじめ・不登校対策委員会」の役割を生徒や保護者に周知することで、生徒が安心して学校生活を送ることができるような環境づく

		<ul style="list-style-type: none"> とともに、生徒や保護者にも周知する。 いじめアンケートの実施方法や、その後の対処の在り方について検証し、いじめの早期発見、適切な対応につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> りを行う。 生徒が記入しやすいアンケートの様式や実施方法、その後の組織的な対応の在り方について検討する。
進路指導 (進路指導部)	<ul style="list-style-type: none"> ①挑戦の志の育成 ②進路データの活用 ③補習の充実 ④情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き最難関を目指す指導の継続。 進路指導に関わるデータの活用促進。 高い志望に対応した補習と二期生の実施。 各学年の進路だよりによる定期的情報発信。 	<ul style="list-style-type: none"> 東京大や京都大などの最難関層を目指す生徒をバックアップできるように。 様々な進路データを活用した進路指導ができるようにする。 積極的な声かけと、進路希望に対応した魅力的な講座展開を行う。 進路の日を設定し、それに合わせて情報発信を行う。
保健・安全・環境教育 (保健部)	<ul style="list-style-type: none"> ①心身の健康の増進 ②危険を予測し安全に行動できる能力を身につける。 ③環境美化に努め学習環境の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察に努める。 感染症予防指導の徹底。 AED講習会・校内安全点検・危機管理に対する取組を実施する。 ゴミの分別と減量化を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察票を活用し早期発見につなげる。 検温を習慣づけ、健康状態を各自で把握できるように指導する。 講習会や安全点検などを実施し、状況の把握と早期対応を図る。 ゴミの分別と持ち帰りの意識を高めるためにポスターなどを作成する。 校内の花壇についても充実させる。
読書指導 (図書情報部)	<ul style="list-style-type: none"> ①来館者、貸出冊数の増加 ②図書委員会の活発化 ③図書館の環境整備 	<ul style="list-style-type: none"> 正しい利用方法を指導する。 良質な読書環境をつくる。 館内の蔵書点検・整理を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 入学時のオリエンテーションで、利用マナーの向上を図り、図書館利用の機会を増やす。 生徒の要望を知り話題の図書を早期導入する。 生徒図書委員会の活動内容を検討する。
情報化推進 (図書情報部)	<ul style="list-style-type: none"> ①ICT機器の活用 ②セキュリティポリシーの周知、徹底 ③教育活動の発信の活発化 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器の利用方法について研修を行う。 セキュリティポリシーの変更点を確認する。 ホームページの更新を迅速に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の要望を反映して、ICT機器の利用環境を整備する。 個人情報に関するセキュリティポリシーについて周知を行う。 更新の技術的なサポートを行う。
S S H事業 推進 (S S H部)	<ul style="list-style-type: none"> ①地域の「知の拠点」として教育プラットフォームの役割 ②S S H事業の充実と広報の工夫 ③探究活動の指導体制づくり ④S S H事業の客観的評価の分析 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の中高生および教員が参加できる研修会や発表会の実施 開発教材の公開 成果発表会の実施方法の検討と内容充実 参加型事業の参加条件や研修内容の検討 教員の指導体制の整備と外部人材の活用 客観的評価方法の改善と、生徒の変容を捉えるための分析 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒探究発表会では、地域の中高生および教員にも参加を促し、特に教員向けの研修の機会とする。 新しい生活様式に対応した新規事業の開発と、既存事業の改善を推進する。 参加型行事への本校生徒および地域中高生の一層の参加を促進する。 中学生サイエンスセミナーを通して、S S Hの魅力地域中学生に体験させながら、講師役生徒のサイエンスリテラシーを育む。 大学等研究機関や卒業生を教育人材とし、活用する指導体制を構築する。 GPS(Global Proficiency Skillsprogram, Benesse) を実施し、探究能力を外部からの客観的な評価で生徒の変容を分析していく。
学校関係者評価を実施する 主な評価項目		<ul style="list-style-type: none"> 業務改善に向けた取組と多忙化の解消に向けた取組 学習指導における授業改善、特にICT環境の活用 S S H事業のさらなる事業の充実に向けた取組 	

(2) 令和3年度学校評価

ア 自己評価結果等

<p>本年度の 重点目標</p>	<p>育てたい生徒像として、「挑戦する人(risk-takers)」を掲げる。</p> <p>(1) 教職員の多忙化解消に向けた取組を行い、教職員が余裕をもって生徒に対することができる環境づくりをする。</p> <p>(2) SSH事業HaRT-Projectにおける三つのプラン（出る杭発見・伸長、起業家魂育み、海外進出促進）による才能の伸ばし方を全校的に考えていく。3期に向け、新たな取組等を将来ビジョンタスクフォースで検討する。</p> <p>(3) 65分授業による「主体的、対話的で深い学び」を追究する。新課程における新たな評価方法をプロジェクトチームで検討する。教員用タブレットの授業への効果的な活用を研究する。</p> <p>(4) 高い目標を掲げて切磋琢磨する、挑戦の志を育む。</p> <p>(5) 行事や普段の生活における、自主自立の健全な精神を培う。</p> <p>(6) さまざまな機会を通じて、中学校や地域に生徒の活躍や本校の歴史を広報し、より志の高い入学生への確保に努める。</p> <p>(7) 感染症対策を十分に行い、教育活動を継続できる環境を整える。</p>		
<p>項目(担当)</p>	<p>重点目標</p>	<p>具体的方策</p>	<p>評価結果と課題</p>
<p>サービス (教頭)</p>	<p>①在校時間等の状況記録の集計結果等を安全衛生委員会等で確認し、1か月間の時間外労働時間が45時間を超えないよう教職員の健康障害防止に努める。</p> <p>②教職員の年次休暇の計画的な使用を促進するための環境整備に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 会議、委員会について、さらに整理、精選を進め、多忙化解消のための再整備を行う。 部活動ガイドラインの遵守に努め、教員自身の休養日を確保するように促す。 定時退校日を月に1日と長期休業中とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 在校時間については、わずかずつであるが減少傾向にある。さらに、減らせるように有効な手立てをしていきたい。 部活動については、活動が活発に行われる時期もあり、ガイドラインの遵守の確認がしづらいため、年間を通じた計画が機能するようにしていきたい。 定時退校日は、ほぼ確実に定時に校舎を施錠することができた。
<p>学習指導 (教務部)</p>	<p>①33単位65分授業における「主体的・対話的で深い学び」の追究</p> <p>②新学習指導要領における観点別学習評価方法の検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートの実施と分析結果の利用方法を検討する。 公開授業週間の改善を行う。 授業の工夫などの情報共有を行う。 本校独自の評価方法を検討し、来年度に向けて周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートを各教科で検討し、授業を振り返る体制を作ることができた。さらなる利用方法の検討を進める。 公開授業週間ではテーマを設定することで重点が明確になり、改善につながった。 授業の情報共有を、全体で行えるよう働きかけたが、多くは共有できなかった。 評価方法を周知できた。来年度、実施しながら調整・改善を進める。
<p>防災・式典 (総務部)</p>	<p>①防災・防犯体制の整備</p> <p>②諸式典の検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> 防災講話、防災避難訓練、帰宅班編制を実施する。自主的な避難訓練を実施する。 諸式典を、威厳を保ちつつ簡略化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 防災講話を実施し、被災地の復旧について生徒に考えさせることができた。 避難経路図を各教室に掲示し、自主的な行動を考えさせる避難訓練を行った。 防災時の行動マニュアルを職員・生徒ともに周知させることができた。 卒業式を在校生へは教室にzoomで配信した。厳かな式にするための工夫を次年度も考えていく。
<p>生徒指導 (生徒指導部)</p>	<p>①基本的な生活習慣の確立と自己管理能力の育成</p> <p>②部活動の活性化と学業との両立</p> <p>③交通事故防止</p> <p>④ひいらぎ特別支援学校との交流活動の推進</p> <p>⑤いじめの未然防止に係る取組の充実</p> <p>⑥いじめの早期発見、適切な事案対処</p>	<ul style="list-style-type: none"> 規則正しい生活習慣を確立させる。 携帯電話等の使用ルールを厳守させ、利用モラルを向上させる。 練習時間の確保と効率的な練習を追究させ、学業との両立を図る。 自転車通学者の交通事故防止に努める。 交流活動のさらなる充実を図る。 全校集会や学年集会、ホームルーム活動において、友情や基本的人権に対する理解を深め、生徒がいじめ問題を主体的に考える機会を設ける。 「いじめ・不登校対策委員会」の役割を具体 	<ul style="list-style-type: none"> 効果的なタイミングで出欠統計を還元し活用していただいた。欠席・遅刻過多生徒への個別指導を実施した。 校内での携帯電話等のルール厳守の徹底に努めたが、少なからず指導を受けた生徒がいた。 コロナ禍の中、限られた条件の中で生徒は効率的な練習を行うことができた。 登校指導、下校指導、講話、掲示物等を通じて、交通事故防止の啓発に努めた。 今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から「ふれあいタイム」をzoomで実施した。 生徒がいじめ問題について主体的に考え、自らに関わる問題として捉えられるようになった。 「いじめ・不登校対策委員会」の役割を生徒や保護者に周知することができた。また、生徒が安心して学校生活を送ることができるような環境づくりができた。 アンケートを生徒が記入しやすい様式で実施した。また、記述内容に考慮した形で回収を行な

		<p>化し、教職員間で共有するとともに、生徒や保護者にも周知する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケートの実施方法や、その後の対処の在り方について検証し、いじめの早期発見、適切な対応につなげる。 	<p>った。今年度はアンケートの結果いじめを訴える生徒はいなかった。</p>
進路指導 (進路指導部)	<p>①挑戦の志の育成 ②進路データの活用 ③卒業生の活用 ④低学年層への指導 ⑤情報発信</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き最難関を目指す生徒を増加させる。 ・進路指導に関わるデータの活用促進。 ・卒業生をさまざまな進路行事に活用する。 ・低学年次から高い志の育成 ・進路だよりを活用して情報発信を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業、補習の充実に加え、難関大模試などの幹旋するなど行った。 ・実力テスト結果や進路希望調査データをまとめて活用した。 ・模試監督としての活用や各種大学研究会に卒業生を講師として招聘した。 ・1、2年生対象の学年進路LTを実施した。 ・進路の日を設定し、それに合わせて情報発信を行った。
保健・安全・ 環境教育 (保健部)	<p>①心身の健康の増進 ②危険を予測し安全に行動できる能力を身につける。 ③環境美化に努め学習環境の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・健康観察に努める。 ・感染症予防指導の徹底。 ・AED講習会・校内安全点検・危機管理に対する取組を実施する。 ・ゴミの分別と減量化を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の健康観察表を活用し、早期発見に努めることができた。今後の状況に合わせて形式を変えていければよい。オンライン化も視野に入れる。 ・保健環境委員会から、黙食の調査結果や熱中症予防について啓発活動を行った。 ・職員間での情報共有について呼び呼びかけ、一人で抱えない体制づくり。 ・相談室の整備や清掃ロッカーの整備など使用しやすい環境づくりを進める。
読書指導 (図書情報部)	<p>①来館者、貸出冊数の増加 ②図書委員会の活発化 ③図書館の環境整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい利用方法を指導する。 ・良質な読書環境をつくる。 ・館内の蔵書点検・整理を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入学時のオリエンテーションで、利用マナーの向上を図るとともに図書館利用の機会を増やす。 ・生徒の要望を知り話題の図書を早期導入する。 ・生徒図書委員会の活動を活発化する。
情報化推進 (図書情報部)	<p>①ICT機器の活用 ②セキュリティポリシーの周知、徹底 ③教育活動の発信の活発化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の利用方法について研修を行う。 ・セキュリティポリシーの変更点を確認する。 ・ホームページの更新を迅速に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の利用環境を整備する。 ・新校務支援システムの円滑な運用を行う ・個人情報に関するセキュリティポリシーについて周知を行う。 ・ホームページの迅速な更新と内容の検討を行う。
SSH事業 推進 (SSH部)	<p>①地域の「知の拠点」として教育プラットフォームの役割 ②SSH事業の充実と広報の工夫 ③探究活動の指導体制づくり ④SSH事業の客観的評価の分析</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の中高校生および教員が参加できる研修会や発表会の実施 ・開発教材の公開 ・成果発表会の実施方法の検討と内容充実 ・参加型事業の参加条件や研修内容の検討 ・教員の指導体制の整備と外部人材の活用 ・客観的評価方法の改善と、生徒の変容を捉えるための分析 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒探究発表会では、オンラインを活用して県内外の高校生の参加を募り、教員向け研修を行うことができた。今後は特に地域の中高生の参加を促したい。 ・オンラインを活用した国際交流事業を開発し、多くの生徒参加を得られた。より魅力ある展開を検討したい。 ・中学生サイエンスセミナーは定員上限となる参加申し込みがあり、地域中学生の興味関心の高まりが感じられた。講師役生徒の貢献する態度や科学リテラシーが醸成された。 ・大学等研究機関や卒業生を教育人材とし、活用することができた。継続的な活用大勢を検討する。 ・GPS(Global Proficiency Skills program, Benesse)等の客観的評価から生徒の変容を分析した。SSH事業の効果との関連について検証する。
学校関係者評価を実施する 主な評価項目		<ul style="list-style-type: none"> ・業務改善に向けた取組と多忙化の解消に向けた取組 ・学習指導における授業改善、特にICT環境の活用 ・SSH事業のさらなる事業の充実に向けた取組 	

イ 学校関係者評価結果等

<p>学校関係者評価を実施した 主な評価項目</p>	<p>学習指導（65分授業における主体的・対話的で深い学びの追究）、生徒指導（遅刻）、広報（ホームページ）、生徒の遅刻状況・対応、SSH（第2期中間報告準備の状況）</p>
<p>自己評価結果について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で再び休校となった場合にリモートで授業が行える状態であってほしい。 ・挨拶があまりできていないという評価が散見されるのが気になる。引き出していただけるような取組をお願いしたい。 ・遅刻が多いことが気になる。 ・不登校生徒への対応も、学校全体で、引き続き取組を継続してほしい。 ・卒業生の活用を図ることを今後さらに活発にするとよい。
<p>今後の改善方策について</p>	<p>知多半島の生徒が名古屋に行かなくても不自由のない教育環境を作れるのが鍵となる。少子化もあり、競争は激しくなるので、民間・地元ともからめた抜本的な魅力が必要だと思う。</p>
<p>その他（学校関係者評価委員から出された主な意見、要望）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生から見て学んでみたいと思えるような学校づくりに取り組んでほしい。そのためには、一層の特色化が必要では。 ・中学生向けに広報誌のように、HPも含めて、どんどん外に向けて半田高校をPRしてほしい。 ・教育目標が、横文字が多くて生徒に浸透しているのか懸念される。意味を丁寧に説明しないと伝わりにくいと感じます。
<p>学校関係者評価委員会の構成及び 評価時期</p>	<p>構成…学校評議委員5名（PTA会長を含む） 時期…9月上旬（中間→中止）及び3月下旬（最終→書面）</p>